

L : M田、S治、S田石、S藤、H麻、H口

小田原駅 8:40 集合であるが 6 時過ぎに家を出発した。ナビの到着時間は 8 時前になっていたので余裕のよっちゃんである。ところが、横浜青葉 IC 近辺で事故が発生、大渋滞となり到着時間はじわじわと遅くなる。事故渋滞を抜けてようやく S 治さんと K 里さんが待つ小田原駅に着いたのは 8:38、まさにオンタイム。間に合ってよかった。M 田車と連絡を取るとちょうど近くに居てほどなく合流する事ができた。

すばるの仲間の忘年山行は昨年に続いて下田ベースで行なう事になっていた。ところが天気予報は芳しくなく、土曜日は下り坂、日曜日は雨予報。それではせめて土曜日だけでも M 田さんが見つめてくれたのは大室山の奥に位置する矢筈山 (816m)。僕にとっては早出川源流の“矢筈岳”に名が似ている事、H 麻には画材の“矢筈”、そして S 田石さんは“筈”という字に引っ掛かりを覚えそれぞれ俄然と興味が湧いた。

熱海を越え、伊東を越え、伊豆高原旅の駅を右折して大室山の縁を抜けて行く。鹿路庭峠の駐車スペースに車を停めて歩き出したのは 11:20 になっていた。

駐車スペースのすぐ脇から山に入る。少し行った所で「ほらあそこ」と M 田さんが指を指した先には葉を落とした木立の間隙から大室山が見上げられた。

孔ノ山という 660m の小山の側面を回り込むように進むと広く湿った窪地に出た。M 田さんは窪地をオウチ (凹地) と呼んでいた。窪地とは区別して言っているのだろう。下手に歩くとヌメっているのでパラパラ散らばっている岩の頭を選んで歩く。

湿り気が無くなった先は杉の木が林立する広場となっていた。そこは凜とした静けさがあって何だか神社の境内みたいな雰囲気だった。矢筈山は粘り気の少ない溶岩が固まった山だそうで周りの岩石からもそれが感じられる。溶岩の岩は苔で覆われ、落ち葉で覆われた地面に独特な味わいを加える。歩き出して 40 分、まさにこれから矢筈山の上りに取り掛かるぞという所で一本入れた。

この先は地図の等高線から読み取れるごとく急な上りとなった。途中で振り返るとうっすらと富士山が見えた。「あんまり雪無いなあ」と声が漏れる。

落ち葉と岩で踏み跡は不鮮明だがようやく傾斜が緩くなる所まで上り切った。ところで“矢筈”とは矢の末端の弓の弦を受ける部分を言うそうだ。山頂部が二つに分かれている形から山名が付いたらしい。二股まで上がりまずは右の方から行ってみる。

13 時、南側のピークに到着。そこには『以東の最高峰矢筈山山頂』という看板が立てられてあった。またこの山は愛称として“げんこつ山”と呼ばれているらしい。地元民の K 里さんによればげんこつみたいに見えるからだそうだ。

「♪げんこつ山のタヌキさん～」と思わず歌が出てしまう。



ただし周囲は木立に覆われ見晴らしは悪い。見晴らしのいい所を探して歩き回った。ここが一番いいかなという狭い場所を M 田さんが見つめ入れ替わりで景色を眺めた。海を背景にした大室山が見える。柔らかな形でそこだけ黄土色というのにも惹かれる。大室山は山体保護のため今はリフトでしか上れないそうだが、あんないい形、自分の足で上ってみたいと思う。

二股まで戻って北側のピークへ行くが南側に比べたらピークっぽい感じではない。でも時間が時間だったのでここでランチタイムとした。

帰路、急斜面なので足場に注意しながらも下りは早い。往路と同じルートを取っているが帰路では寄りたい所があった。それは登山道から外れた所にある窪地である。そこには“盆栽”と呼ばれる木があるらしい。

孔ノ山の側面を越えてから窪地の近くまで伸びている尾根筋に乗ろうとしたが落ち方が急だったため引き返し、落ち口の近くまで伸びる等高線のレベルまで下りてからアプローチした。

斜面を下り切るとそこは大雨の後には池になりそうな空間となっており、その真ん中には岩の重なりの上に枝を広げた大木が伸びていた。なるほどこれが“盆栽”か！一種独特な光景、これはわざわざ見に来るに値すべき場所だった。

僕の頭の中に大学生の頃テレビで見た“盆栽小僧”が浮かんで来た。まだその唄は唄える。

「♪おいらは盆栽小僧～」と唄わずにいられなくなった。それとその掛け声

「ぼんさい、ぼんさい、ぼ～んさい、ぼんさい、ぼんさい、ぼ～んさい！」

しかし感極まった僕の行動は一部からは不評だったと後で聞いた…。 m(_ _)m



15時、鹿路庭峠の駐車スペースに戻る。車に乗り込み走り出すと

「ほら、ここから見ると矢筈山がげんこつみたいに見えるでしょう。」

「ホントだ」とK里さんとH麻が話していたが、ハンドルを握っている僕は見る事ができない。いったいどんなげんこつなんだろう。

この後どこの温泉に行くか伊豆高原旅の駅に寄って情報を集める事にした。そこには『カピバラの湯』という足湯があり、カキを頭に乘せた巨大なカピバラのモニュメントの周りが足湯になっている。

「私は別に足湯だけでも構わないが」とS治さんが言ったが他のメンバーはちゃんと温泉に浸かりたかった。結果的に赤沢を越えた先の大川温泉の露天風呂に立ち寄ったが海に面した気持ちの良い温泉だった。

その後、買い出しをしてから下田の宿に向かい楽しい忘年会に突入した。

日曜日は予報通り朝から雨。窓から見える利島も消えたり現われたり。あわよくば小室山に上りたかったけれどこれではなあ。それでは下田の道の駅に寄って帰ろうという事になり道の駅の営業時間に合わせて宿を出た。

雨の日の海は哀しい色をしていたが、河津を越えた辺りから空が明るくなってきた。雨も上がりこれはもしかしたら小室山に上れるかもしれない。途中のドライブインでこれからの行動について相談をした。

「小室山かカピバラの湯かと言うなら私はカピバラの湯にしたい」とS治さんが言う。S治さん、昨日からカピバラの湯に心が奪われているようだ。

「いや、二択でなくどちらも行きましようよ。」

伊豆高原旅の駅へ向かい、足湯に浸かり食事をしてから腹ごなし的に小室山へ上ろうという事になった。そして遂に念願のカピバラの湯に足を浸けたS治さん、何ともいい表情をしていた。K里さんがS治さんのことを「カピバラさん」と呼んでいた。

小室山は 321m で駐車場から標高差 100m ちょっとの山。小室山公園となっているように一般観光客が集まる所である。そこに上りたかったのは大室山や矢筈山がよく見えるとK里さんが教えてくれたからだ。20 分ちょっとで山頂に着くとそこはボードウォークになっていた。それで気になる眺めはというと、空は明るくなっていたが雲がまだ低い位置に立ち込めていて大室山も矢筈山も残念ながら姿を拝むことができなかった。矢筈山のげんこつの形は案内板の写真で確認するに留まった。まあそれでも雨のせいで上らずに帰るよりどんなに良かったか。下山路はジュラシックコースを歩き何体もある恐竜のモニュメントが楽しめた。

わさび販売所に立ち寄りそこで解散となった。げんこつ山に集まったタヌキさん達(とカピバラさん)、ぼんぽこ、ぼんぽこ、来年もいい山行ができますように。

(H口 記)

